



ユーザとグループの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [ユーザ ロールの管理, 1 ページ](#)
- [ユーザ ロールの追加, 2 ページ](#)
- [ユーザ タイプの管理, 3 ページ](#)
- [デフォルトのユーザ権限, 3 ページ](#)
- [グループの管理, 28 ページ](#)
- [管理プロファイルの設定, 34 ページ](#)
- [ユーザ アクセス プロファイルの管理, 37 ページ](#)
- [グループおよび顧客組織のブランディング, 53 ページ](#)
- [ログイン ページのブランディング, 55 ページ](#)

ユーザ ロールの管理

Cisco UCS Director は次のユーザ ロールをサポートしています。

- すべてのポリシー管理者
- 請求管理者
- コンピューティング管理者
- グループ管理者：ユーザを追加する権限を持つエンド ユーザ。このユーザはセルフサービスポータルを使用できます。
- IS 管理者
- MSP 管理者
- ネットワーク管理者

- オペレータ
- サービス エンド ユーザ：このユーザはセルフサービス ポータルの表示および使用のみが可能です。
- ストレージ管理者
- システム管理者

これらのユーザ ロールは、システム定義されデフォルトで使用できます。[ユーザロール] ページの [デフォルトロール] カラムに [はい] と表示されている場合は、ロールがシステム内でデフォルトで使用できるかどうかを確認できます。

システムの管理者として、ユーザ ロールを使用して以下のタスクを実行できます。

- システムで新しいユーザ ロールを作成し、このロールを持つユーザを作成する。
新しいユーザ ロールの作成時に、そのロールを管理者またはエンド ユーザのロールにするかを指定できます。ユーザ ロールの作成の詳細については、[ユーザ ロールの追加](#)、(2 ページ) を参照してください。ロールに対するユーザの作成の詳細については、[ユーザの追加](#)、(35 ページ) を参照してください。
- 既存のユーザ ロール (デフォルトのロールを含む) を変更し、そのロールに関連付けられているユーザのメニュー設定と読み取り/書き込み権限を変更する。
ロールのメニュー設定と権限の変更手順は、ユーザ ロールの追加時の手順と同じです。

ユーザ ロールの追加

Cisco UCS Director に任意の数のユーザ ロールを作成し、そのロールのユーザのメニュー設定を定義できます。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザロール] タブをクリックします。
- ステップ 3 [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザロールの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ユーザロール] フィールド	ユーザ ロールの名前。
[ロールタイプ] ドロップダウン リスト	追加するロールのタイプを選択します。この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 総務 • エンド ユーザ

名称	説明
[説明] フィールド	追加するロールの説明。

- ステップ5 [次へ] をクリックします。
- ステップ6 [メニュー設定] ペインで、このロールを定義されたユーザに表示されるメニュー オプションを選択します。
- ステップ7 [次へ] をクリックします。
- ステップ8 [ユーザ権限] ペインでは、このロールに作成されるユーザのさまざまなタスクに対する読み取りまたは書き込み権限を選択します。
- ステップ9 [送信] をクリックします。

次の作業

このタイプのロールを持つユーザを作成します。

ユーザタイプの管理

システム管理者には、ユーザの追加、ユーザとユーザ権限の表示、さまざまなシステム コンポーネントに対する個別ユーザの読み取り/書き込み権限の変更など、Cisco UCS Director を管理するためのすべての権限が与えられています。

ほとんどのユーザは、ログイン時に管理ポータルを表示して使用します。

デフォルトのユーザ権限

各管理ユーザは、Cisco UCS Director にアクセスするための権限セットを持っています。ユーザ権限のタイプは次のとおりです。

- 読み取り：読み取り権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取りのみを行うことができます。
- 書き込み：書き込み権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取り、書き込み、および変更を行うことができます。この権限では、ファイルの変更、削除、または名前変更が許可されます。
- 読み取り/書き込み：読み取り/書き込み権限を持つ管理ユーザは、ファイルの読み取り、および書き込みを行うことができます。

すべてのポリシー管理者

次の表は、全ポリシー管理者が実行できるアクションのリストを示します。

一般業務	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	はい
物理ストレージ	はい	はい
物理ネットワーク	はい	はい
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソース アカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ

一般業務	権限	
コンピューティング ポリシー	いいえ	はい
ストレージ ポリシー	いいえ	はい
ネットワーク ポリシー	いいえ	はい
導入ポリシー	いいえ	はい
SLA ポリシー	いいえ	はい
リソース制限レポート	いいえ	はい
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	はい	いいえ
検出	はい	いいえ
MSP	いいえ	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージバック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティングの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	はい

一般業務	権限	
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

請求管理者

次の表は、請求管理者が実行できるアクションのリストを示します。

オペレーション	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		
VM ラベル		
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		
物理ストレージ		
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	はい	
承認者のサービス リクエスト		
予算	はい	はい
リソース アカウンティング	はい	
チャージバック	はい	
システム管理者		
ユーザとグループ		

オペレーション	権限	
仮想アカウント		
カタログ		
vDC		
コンピューティング ポリシー		
ストレージポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート	はい	
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	はい	はい
CloudSense アセスメントレポート		
オーケストレーション		
検出	はい	
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイルアクセス設定		

オペレーション	権限	
エンドユーザのチャージバック		
リソース アカウンティングの書き込み		はい
チャージバックの書き込み		はい
UCSD クラスタ		

コンピューティング管理者

次の表は、コンピューティング管理者が実行できるアクションのリストを示します。

オペレーション	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	いいえ
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	はい
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービスリクエスト	はい	いいえ
承認者のサービスリクエスト	はい	はい
予算	はい	いいえ

オペレーション	権限	
リソース アカウ ン テ ィ ン グ	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	はい
ストレージ ポリ シー	はい	いいえ
ネットワーク ポリ シー	はい	いいえ
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ
リソース制限レポー ト	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメ ント レポート	はい	いいえ
オーケストレーショ ン	はい	いいえ
検出	はい	いいえ
MSP	はい	はい

オペレーション	権限	
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモートVMアクセス	いいえ	いいえ
モバイルアクセス設定	いいえ	いいえ
エンドユーザのチャージバック	いいえ	いいえ
リソースアカウントティングの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

グループ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		はい
VM ラベル		はい
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング		

タスク	権限	
物理ストレージ	はい	はい
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	はい	はい
承認者のサービス リクエスト	はい	はい
予算		
リソース アカウンティング		
チャージバック		
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ	はい	
vDC	はい	
コンピューティング ポリシー	はい	はい
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート		
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	はい	

タスク	権限	
CloudSense アセスメント レポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート	はい	はい
CS 共有評価	はい	はい
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンド ユーザのチャージ バック	はい	
リソース アカウンティン グの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

IS 管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい

タスク	権限	
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービスリクエスト	はい	いいえ
承認者のサービスリクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソースアカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	はい
vDC	はい	はい
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	いいえ	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	いいえ
導入ポリシー	はい	はい
SLA ポリシー	はい	はい
リソース制限レポート	はい	いいえ

タスク	権限	
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメントレ ポート	はい	いいえ
オーケストレーション	いいえ	はい
検出	いいえ	はい
MSP	いいえ	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージ バック	いいえ	いいえ
リソースアカウンティング の書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

ネットワーク管理者

タスク	権限	
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい

タスク	権限	
vDC への VM 割り当て	いいえ	いいえ
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	はい
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	はい
リソース アカウンティング	はい	はい
チャージバック	はい	はい
システム管理者	いいえ	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	はい	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	はい
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ

タスク	権限	
リソース制限レポート	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	はい	はい
検出	はい	はい
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージ バック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティン グの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

オペレータ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み

タスク	権限	
仮想コンピューティング	はい	いいえ
VM ラベル	いいえ	はい
vDC への VM 割り当て	いいえ	はい
仮想ストレージ	はい	いいえ
仮想ネットワーク	はい	いいえ
物理コンピューティング	はい	いいえ
物理ストレージ	はい	いいえ
物理ネットワーク	はい	いいえ
グループのサービス リクエスト	いいえ	いいえ
承認者のサービス リクエスト	いいえ	いいえ
予算	はい	いいえ
リソース アカウンティング	はい	いいえ
チャージバック	はい	いいえ
システム管理者	はい	いいえ
ユーザとグループ	はい	いいえ
仮想アカウント	はい	いいえ
カタログ	はい	いいえ
vDC	はい	いいえ
コンピューティング ポリシー	はい	いいえ
ストレージ ポリシー	はい	いいえ
ネットワーク ポリシー	はい	いいえ

タスク	権限	
導入ポリシー	はい	いいえ
SLA ポリシー	はい	いいえ
リソース制限レポート	はい	いいえ
グループ ユーザ	はい	いいえ
CloudSense レポート	はい	いいえ
CloudSense アセスメント レポート	はい	いいえ
オーケストレーション	いいえ	いいえ
検出	いいえ	いいえ
MSP	いいえ	いいえ
自動化モジュールを開く	いいえ	いいえ
グループ ユーザ	いいえ	いいえ
CS 共有レポート	いいえ	いいえ
CS 共有評価	いいえ	いいえ
リモート VM アクセス	いいえ	いいえ
モバイル アクセス設定	いいえ	いいえ
エンド ユーザのチャージ バック	いいえ	いいえ
リソース アカウンティン グの書き込み	いいえ	いいえ
チャージバックの書き込み	いいえ	いいえ
UCSD クラスタ	いいえ	いいえ

サービス エンド ユーザ

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング		はい
VM ラベル		はい
vDC への VM 割り当て		はい
仮想ストレージ		
仮想ネットワーク		
物理コンピューティング	はい	
物理ストレージ	はい	
物理ネットワーク		
グループのサービス リクエスト	はい	はい
承認者のサービス リクエスト	はい	はい
予算		
リソース アカウンティング	はい	
チャージバック	はい	
システム管理者		
ユーザとグループ		
仮想アカウント		
カタログ	はい	
vDC	はい	

タスク	権限	
コンピューティング ポリシー		
ストレージ ポリシー		
ネットワーク ポリシー		
導入ポリシー		
SLA ポリシー		
リソース制限レポート	はい	
グループ ユーザ		
CloudSense レポート	はい	
CloudSense アセスメントレポート		
オーケストレーション		
検出		
MSP		
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート	はい	
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンドユーザのチャージバック	はい	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		

タスク	権限	
UCSD クラスタ		

ストレージ管理者

タスク	権限	
	読み取り	書き込み
仮想コンピューティング	はい	
VM ラベル		はい
vDC への VM 割り当て		
仮想ストレージ	はい	
仮想ネットワーク	はい	
物理コンピューティング	はい	
物理ストレージ	はい	
物理ネットワーク	はい	
グループのサービス リクエスト	はい	
承認者のサービス リクエスト	はい	はい
予算	はい	
リソース アカウンティング	はい	
チャージバック	はい	
システム管理者	はい	
ユーザとグループ	はい	
仮想アカウント	はい	

タスク	権限	
カタログ	はい	
vDC	はい	
コンピューティング ポリシー	はい	
ストレージ ポリシー	はい	
ネットワーク ポリシー	はい	
導入ポリシー	はい	
SLA ポリシー	はい	
リソース制限レポート	はい	
グループ ユーザ	はい	
CloudSense レポート	はい	
CloudSense アセスメント レポート	はい	
オーケストレーション	はい	
検出	はい	はい
MSP	はい	はい
自動化モジュールを開く		
グループ ユーザ		
CS 共有レポート		
CS 共有評価		
リモート VM アクセス		
モバイル アクセス設定		
エンド ユーザのチャージバック	はい	はい

タスク	権限	
リソース アカウンティングの書き込み		
チャージバックの書き込み		
UCSD クラスタ		

ユーザの役割および権限

次の表に、各管理ユーザタイプに対応する権限のリストを示します。

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
仮想コンピューティング	読み取り		読み取り		読み取り	書き込み	書き込み	読み取り		読み取り
VM ラベル	書き込み				書き込み	書き込み	書き込み	書き込み		書き込み
vDC への VM 割り当て	書き込み				書き込み			書き込み		
仮想ストレージ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
仮想ネットワーク	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理コンピューティング	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
物理ストレージ	読み取り/書き込み		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
物理ネットワーク	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り
グループのサービスリクエスト			読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り
承認者のサービスリクエスト		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み
予算	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
リソースアカウントティング	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
チャージバック	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り
システム管理者	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ユーザとグループ	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
仮想アカウント	読み取り		読み取り		読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
カタログ	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
vDC	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り		読み取り
コンピューティングポリシー	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り		読み取り	読み取り		読み取り
ストレージポリシー	読み取り/書き込み		読み取り				読み取り	読み取り		読み取り
ネットワークポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り			読み取り		読み取り
導入ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
SLA ポリシー	読み取り/書き込み		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り	読み取り		読み取り
リソース制限レポート	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り
グループユーザ	読み取り		読み取り	書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
CloudSense レポート	読み取り	読み取り/書き込み	読み取り	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り	読み取り	読み取り
CloudSense アセスメント レポート	読み取り		読み取り							
オーケストレーション	読み取り		読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			
検出	読み取り	読み取り	読み取り		読み取り/書き込み		読み取り/書き込み			読み取り/書き込み
MSP	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み		読み取り/書き込み	読み取り/書き込み	読み取り/書き込み			読み取り/書き込み
自動化モジュールを開く						書き込み				
グループユーザ						読み取り				
CS 共有レポート				読み取り/書き込み		読み取り				
CS 共有評価				読み取り/書き込み						

権限	すべてのポリシー管理者	請求管理者	コンピューティング管理者	グループ管理者	IS 管理者	MSP 管理者	ネットワーク管理者	オペレータ	サービスエンドユーザ	ストレージ管理者
リモート VM アクセス										
モバイルアクセス設定										
エンドユーザのチャージバック			読み取り	読み取り		読み取り			読み取り	
リソースアカウントの書き込み		書き込み								
チャージバックの書き込み	書き込み	書き込み								
UCSD クラスタ										

グループの管理

グループまたは顧客組織の作成

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザ グループ] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] をクリックします。
- ステップ 4** [グループの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	グループまたは顧客組織の名前。
[説明] フィールド	グループまたは顧客組織の説明（必要な場合）。
[コード] フィールド	グループの短い名前またはコード名。この名前は、VM とホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター] フィールド	（任意）コストセンターの名前または番号（必要な場合）。この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。この名前は、VMware システム ポリシー VM の命名規則で使用できます。 命名規則にコストセンターを使用する方法の詳細については、 ポリシーの管理 を参照してください。
[連絡先の電子メール] フィールド	この電子メールアドレスは、必要に応じてサービスリクエストとリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知するために使用されます。
[名] フィールド	連絡先の名。
[姓] フィールド	連絡先の姓。
[電話] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所] フィールド	連絡先の住所。

フィールド名	説明
[グループ共有ポリシー] ドロップダウンリスト	このグループ内のユーザのグループ共有ポリシーを選択します。 このドロップダウンリストにデータが取り込まれるのは、グループ共有ポリシーを作成した場合だけです。このポリシーの作成の詳細については、 グループ共有ポリシーの作成 を参照してください。
[ユーザへのリソース割り当てを許可] チェックボックス	オンにすると、ユーザにこのグループのリソースが割り当てられ、それらのリソースを所有できます。またこれらのユーザは、グループに属するリソースを表示できます。ただし、ユーザ間でリソースを共有することはできません。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。

パスワードポリシー

パスワードポリシーはすべてのユーザに適用され、すべてのユーザタイプに関して、ユーザを追加するか、パスワードを変更する際に適用されます。このポリシーによって、次のパスワード制限が適用されます。

- パスワードの長さ
- パスワードをユーザ名と同じにすることができるかどうか
- 現在のパスワードを新しいパスワードとして再設定できるかどうか
- パスワードで使用できない正規表現

パスワードポリシーの作成

手順

ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。

ステップ 2 [パスワードポリシー] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[パスワードの最小長] ドロップダウンリスト	パスワードの最小文字数を選択します。

名称	説明
[パスワードの最大長] ドロップダウン リスト	パスワードの最大文字数を選択します。
[文字クラスの最小数] ドロップダウン リスト	大文字、小文字、数字、特殊文字などの文字クラスの最小数を選択します。
[ログイン名を含むパスワードを許可しない] チェックボックス	ログイン ID と同じパスワードの使用を禁止するには、このチェックボックスをチェックします。
[以前のパスワードを許可しない] チェックボックス	以前のパスワードの使用を禁止し、新しいパスワードが古いパスワードと同一にならないようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[正規表現と一致するパスワードを許可しない] フィールド	パスワードでの使用を禁止する正規表現（1 行に 1 つずつ）。たとえば <code>*abc*</code> は、指定するパスワードには文字列「abc」が含まれていてはならないことを指定します。

ステップ 3 [送信] をクリックします。

グループ予算ポリシー

チャージバック機能を使用して、リソースが計上されます。グループまたは顧客の組織ごとのリソース使用に対して、エンティティを予算ポリシーに関連付けます。

グループまたは顧客の組織を予算の監視機能付きで設定して、グループまたは顧客の組織が、プロビジョニングされた予算内で収まるようにすることも、予算を超過できるように設定することもできます。

グループ予算ポリシーの表示および編集

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザグループ]タブを選択します。
- ステップ 3 リストからグループを選択します。
- ステップ 4 [予算ポリシー]をクリックします。
- ステップ 5 [予算ポリシー]ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[予算の監視の有効化] チェックボックス	グループによる予算の使用状況をモニタするには、このチェックボックスをオンにします。このグループのすべての予算エントリを無視するには、このチェックボックスをオフにします。
[予算超過を許可] チェックボックス	グループメンバーに対しプロビジョニング済み予算の超過を許可する場合は、オンにします。予算をすべて消化した場合に、新しい予算が追加されるまで、すべてのリクエストを却下するには、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 6 [保存]をクリックします。

リソース制限値

リソース使用率を管理するために、グループまたは顧客組織のリソース制限値を設定できます。次の制限値を指定できます。



(注) オペレーティングシステムリソースと物理リソースの制限に関する設定は、パブリッククラウドではサポートされません。

- 仮想リソース
- オペレーティングシステムリソース
- 物理リソース

リソース制限の表示

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、[組織]>[サマリー]の順に選択します。
- ステップ 2** 表示するグループをクリックします。
- ステップ 3** [リソース制限]を選択して、選択したグループのリソースの現在の制限、使用状況、保留中のSRの使用、およびステータスを表示します。
-

リソース制限の編集

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ユーザグループ]タブを選択します。
- ステップ 3** グループを選択し、[リソース制限の編集]をクリックします。[リソース制限]ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** [リソース制限]ダイアログボックスで、[リソースの制限の有効化]チェックボックスをオンにして、以下のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
グループ (表示のみ)	グループ名
[リソースの制限の有効化] チェックボックス	リソース制限を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。リソース制限を無効にする場合は、このチェックボックスをオフにします。チェックボックスをオンにすると、グループに対するリソース制限を設定するためのオプションが示され、ゼロ以外のリソース制限がすべて適用されます。
[アクティブなVMの最大数]	アクティブな VM の最大数。
[VMの最大合計数]	VM の合計数。

フィールド名	説明
[VDCの最大合計数]	VDC の合計数。 VM のプロビジョニング時に、ユーザが指定する VDC の数がこのフィールドに指定した数を超過すると、エラーメッセージが表示されます。
[プロビジョニング済みvCPUの制限]	プロビジョニング済み vCPU の最大数。
[プロビジョニング済みメモリの制限 (GB)]	プロビジョニング済みメモリの制限 (GB) 。
[プロビジョニング済みCPUの制限(GHz)]	プロビジョニングされた CPU 制限 (GHz)
[プロビジョニング済みディスクの制限(GB)]	プロビジョニング済みディスクの制限 (GB) 。
[予約済みCPUの制限(GHz)]	予約済み CPU の制限 (GHz) 。
[予約済みメモリの制限(GB)]	予約済みメモリの制限 (GB) 。
[スナップショットの制限(GB)]	最大のスナップショット制限 (GB) 。
[非アクティブなVMのCPUとメモリのカウント] チェックボックス	グループの非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース制限の計算に含める場合は、このチェックボックスをオンにします。非アクティブな VM CPU またはメモリ データをリソース計算から除外するには、このチェックボックスをオフにします。
OS リソース制限 (注) OS のリソース制限および物理リソースの制限の設定は、パブリック クラウドではサポートされません。	
[CentOS]	CentOS (Community Enterprise Operating System) サーバの最大数。
Windows Server 2008	Windows 2008 サーバの最大数。
Windows 7	Windows 7 マシンの最大数。
Windows XP	Windows XP マシンの最大数。
Red Hat	Red Hat マシンの最大数。
Ubuntu	Ubuntu マシンの最大数。

フィールド名	説明
[FreeBSD]	FreeBSD マシンの最大数。
[その他のLinux]	その他の Linux OS の最大数。
その他	その他の OS の最大数。
物理リソース制限	
[物理サーバの最大数]	サーバの最大数。
[物理サーバの最大メモリ(GB)]	サーバの最大メモリ容量。
[物理サーバの最大CPU数]	サーバ CPU の最大数。
[vFilerの最大数]	vFiler の最大数。
[物理ストレージの最大容量(GB)]	ストレージの最大容量。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

管理プロファイルの設定

管理者プロファイルの作成

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインユーザ] タブを選択します
- ステップ 3** [追加] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザタイプ] のドロップダウン リスト	ユーザタイプに [管理者] を選択します。システム管理者には、すべての権限が与えられています。

フィールド名	説明
ログイン名	ログイン名。デフォルトは [admin] です。
パスワード	管理者アカウントのパスワード。
パスワードの確認	確認のために管理者アカウントのパスワードを再入力します。
ユーザの連絡先メール	管理者の電子メールアドレス。
名	管理者の名。
姓	管理者の姓。
電話	管理者の電話番号。
住所	管理者の住所。

ステップ 5 [追加] をクリックします。

管理者パスワードの変更

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。
 - ステップ 2** [ログイン名] の列で、[管理者] を選択します。
 - ステップ 3** [パスワードの変更] をクリックします。
 - ステップ 4** [パスワードの変更] ダイアログボックスで、管理ユーザの新しいパスワードを入力し、確認します。
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

ユーザの追加

はじめる前に

グループにユーザを追加する前に、そのグループが作成されていることを確認してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインユーザ] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザロール] ドロップダウン リスト	ユーザのロールタイプを選択します。 (注) このドロップダウン リストには、Cisco UCS Director で使用可能なすべてのユーザ ロールが表示されます。デフォルトで使用可能なユーザ ロールに加えて、追加のユーザ ロールを作成できます。ユーザ ロールの作成の詳細については、 ユーザ ロールの追加, (2 ページ) を参照してください。
[ログイン名] フィールド	ログイン名。
[パスワード] フィールド	パスワード。 (注) ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証が設定されている場合、パスワードはローカル サーバではなく、LDAP サーバでのみ検証されます。
[パスワードの確認] フィールド	確認のためにパスワードを再入力します。
[ユーザの連絡先電子メール] フィールド	電子メールアドレス。 (注) 電子メールアドレスは、サービス リクエストのステータスをグループ所有者に通知し、承認を要求するために必要です。
[名] フィールド	名。
[姓] フィールド	姓。
[電話] フィールド	ユーザの電話番号です。
[住所] フィールド	ユーザの郵便住所です。

ステップ5 [追加] をクリックします。

次の作業

ユーザをメインウィンドウから選択し、[プロファイルの管理] をクリックすると、任意でそのユーザに複数のロールを割り当てることができます。

現在のオンラインユーザの表示

手順

ステップ1 メニューバーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。

ステップ2 オンラインユーザのリストを表示するには、[現在のオンラインユーザ] タブを選択します。ユーザ名、IPアドレス、セッションの開始時刻、最終データアクセス、およびクライアントを確認できます。

ユーザアクセス プロファイルの管理

マルチロール アクセス プロファイル

1人のユーザを複数のロールに割り当てることができます。これは、1つのユーザアクセスプロファイルとしてシステム内で反映されます。たとえば、あるユーザが、グループ管理者、および全ポリシーの管理者として Cisco UCS Director にログインしようとした場合、両方のタイプのアクセスが適切であれば、いずれのログインも可能です。

アクセスプロファイルは、ユーザごとに表示できるリソースも定義します。デフォルトでは、1人のユーザが作成されたときに1つのアクセスプロファイルが作成されます。デフォルトでは、ユーザは自分のリソース、およびグループのリソースを参照できます。ユーザはプロファイルを作成して、自分のリソースを参照することも、グループで共有しているリソースのみを参照することもできます。



(注) プロファイルの1つを、デフォルトのユーザアクセスプロファイルとして設定できます。



(注) [プロファイルの管理] 機能を使用して、ユーザアクセスプロファイルに対して追加、ログイン、編集、または削除を行うことができます。

ユーザ アクセス プロファイルの作成

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインユーザ] タブを選択します
- ステップ 3** リストからユーザを選択します。
- ステップ 4** [プロファイルの管理] をクリックします。
- ステップ 5** [プロファイルの管理] ウィンドウで、[追加+] をクリックします。
- ステップ 6** [アクセスプロファイルへのエントリの追加] ダイアログ ボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[名前] フィールド	プロファイル名。
[説明] フィールド	プロファイルの説明です。
[タイプ] ドロップダウン リスト	ユーザ ロールのタイプを選択します。
[顧客組織] ドロップダウン リスト	このユーザプロファイルを適用する組織を選択します。
[ユーザがアクセスできるすべてのグループのリソースを表示します] チェックボックス	ユーザがアクセスできるか、ユーザがその一部であるすべての他のグループからのリソースを表示できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[共有グループ] フィールド	[選択] をクリックして、ユーザプロファイルを適用するグループを選択します。 ユーザは、選択されたグループに関連付けられたすべてのリソースにアクセスできます。
[デフォルトのプロファイル] チェックボックス	デフォルトのユーザ アクセス プロファイルである場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでない場合は、このチェックボックスをオフにします。

- ステップ 7** [送信] をクリックします。

次の作業

必要に応じて、追加のユーザ プロファイルを作成します。

ユーザ アクセス プロファイルの編集

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
 - ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。
 - ステップ 3 リストからユーザを選択します。
 - ステップ 4 [プロファイルの管理] をクリックします。
 - ステップ 5 [プロファイルの管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。
 - ステップ 6 [編集] をクリックします。
 - ステップ 7 [アクセスプロファイルエントリの編集] ダイアログボックスで、必要に応じて、[名前]、[説明]、[タイプ]、[グループ]、または [デフォルトのプロファイル] フィールドを編集します。
 - ステップ 8 [送信] をクリックします。
-

ユーザ アクセス プロファイルの削除

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
 - ステップ 2 [ログインユーザ] タブを選択します。
 - ステップ 3 リストからユーザを選択します。
 - ステップ 4 [プロファイルの管理] をクリックします。
 - ステップ 5 [プロファイルの管理] ウィンドウで、リストからユーザを選択します。
 - ステップ 6 [プロファイルの管理] ダイアログボックスで、[削除] をクリックします。
-

プロフィールへのログイン

手順

-
- ステップ 1** [Cisco UCS Director ログイン] ダイアログボックスの [ユーザ名] フィールドに、ユーザ名を「ユーザ名: アクセス プロファイル名」の形式で入力します。
(注) 例: Alex:
GrpAdmin
- ステップ 2** [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
- ステップ 3** [ログイン] をクリックします。
-

プロフィールの削除

デフォルトプロフィールは、システムで作成した最初のプロファイルです。デフォルトプロフィールを別のプロフィールに変更できます。新しいデフォルトプロフィールを使用し、ユーザ名とパスワードを入力してログインします。

デフォルト プロファイルの変更

手順

-
- ステップ 1** ウィンドウ右上 ([ログアウト] の左側) で、ユーザ名をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザ情報] ウィンドウの [アクセスプロフィール] タブを選択します。
- ステップ 3** ユーザプロフィールを選択し、[デフォルトプロフィールとして設定] をクリックします。
(注) プロファイルを追加または編集するときにも、プロフィールをデフォルトとして設定できます。
-

認証および LDAP 統合

ローカル認証に対してフォールバックがある設定、フォールバックがない設定、および LDAP に対してフォールバックがある設定が可能です。また、フォールバックを行わない VeriSign ID 保護 (VID) 認証を設定できます。

名称	説明
[ローカル認証]	認証は、ローカルのみ (Cisco UCS Director) で実行され、LDAP サーバ経由では実行されません。
[ローカルが最初、LDAPにフォールバック]	認証は最初にローカル サーバ (Cisco UCS Director) で実行されます。ユーザがローカルサーバにない場合、LDAP サーバが確認されます。
[LDAPが最初、ローカルにフォールバック]	認証は最初に LDAP サーバで実行されます。ユーザが LDAP サーバにない場合、ローカルサーバ (Cisco UCS Director) が確認されます。
[VeriSign ID保護]	VIP 認証サービス (2 要素認証) が有効化されます。

認証の環境設定

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
 - ステップ 2 [認証の環境設定] タブを選択します。
 - ステップ 3 [認証の環境設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[認証の環境設定] ドロップダウン リスト	<p>認証の環境設定を選択します。</p> <p>次のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ローカル認証] このオプションを選択した場合は、ステップ 4 に進みます。 • [ローカルが最初、LDAPにフォールバック] • [LDAPが最初、ローカルにフォールバック] この LDAP 関連オプションのいずれかを選択するときには、LDAP サーバを設定する必要があります。詳細については、LDAP サーバの設定、(45 ページ) を参照してください。 • [VeriSign ID保護] このオプションを選択した場合は、ステップ 5 に進みます。

ステップ 4 ローカル認証の場合、[保存] をクリックします。
この認証設定を優先すると、LDAP ユーザは、Cisco UCS Director にログインできません。

ステップ 5 [VeriSign ID保護] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) VIP 証明書をアップロードするには、[参照] をクリックします。
証明書を見つけて選択し、[アップロード] をクリックします。
- b) [パスワード] を入力します。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

LDAP 統合

LDAP 統合を使用して、LDAP サーバのグループおよびユーザを Cisco UCS Director と同期することができます。LDAP 認証により、同期されたユーザを LDAP サーバで認証することができます。LDAP ユーザおよびグループは、自動または手動で同期できます。LDAP 同期はシステムタスクとしても実行できます。手動または自動で新しい組織単位 (OU) が LDAP ディレクトリに追加され、同期プロセスが実行されると、直近に追加された LDAP ユーザおよびグループが Cisco UCS Director に表示されます。

**重要**

グループ、またはドメインユーザのグループに属していないユーザは、[グループに属していないユーザ]としてLDAPに表示されます。これらのユーザは、Cisco UCS Director のドメインユーザのグループの下に追加されます。

ローカルに存在している、または Cisco UCS Director で外部から同期されているユーザおよびグループは選択できません。

異なる LDAP サーバアカウントに所属し、同じ名前を持った LDAP ユーザを追加できます。ログインユーザ名を区別するために、ドメイン名が末尾に追加されます。たとえば、abc@vxdomain.com などです。このルールは、ユーザグループにも適用されます。

単一のLDAPアカウントが追加され、ユーザがユーザ名のみを指定してログインすると、Cisco UCS Director は最初にそのユーザがローカルユーザまたはLDAPユーザのどちらであるかを判別します。ユーザがローカルユーザおよび外部LDAPユーザの両方として識別された場合、ログイン段階でユーザ名がローカルユーザ名に一致すると、そのローカルユーザがCisco UCS Director に対して認証されます。あるいは、ユーザ名が外部ユーザの名前に一致すると、そのLDAPユーザがCisco UCS Director に対して認証されます。

LDAP 統合の規則と制限事項

グループの同期規則

- 選択した LDAP グループが Cisco UCS Director にすでに存在しており、ソースのタイプが [ローカル] の場合、同期の際そのグループは無視されます。
- 選択した LDAP グループが Cisco UCS Director にすでに存在しており、グループソースのタイプが [外部] の場合、そのグループの説明および電子メール属性が Cisco UCS Director で更新されます。

ユーザの同期規則

- 選択した LDAP ユーザが Cisco UCS Director にすでに存在しており、ソースのタイプが [外部] の場合、そのユーザは同期で無視されます。ユーザの名前、説明、電子メールおよびその他の属性が再度更新されることはありません。
- ユーザアカウントが2つの異なる LDAP ディレクトリに作成されると、最初に同期された LDAP ディレクトリのユーザの詳細が表示されます。もう一方の LDAP ディレクトリからのユーザの詳細は表示されません。
- 複数の LDAP ディレクトリが同期された後、LDAP 外部ユーザは、完全なドメイン名をユーザ名と共に指定して Cisco UCS Director にログインする必要があります。たとえば、vxdomain.com\username のように指定します。ただし、Cisco UCS Director に追加されている LDAP サーバディレクトリが1つしかない場合には、この規則は適用されません。

ユーザ同期の制限事項

- あるユーザが複数のグループメンバーシップを持っていても、そのユーザは Cisco UCS Director では単一のグループメンバーシップを持つこととなります。



(注) LDAP同期プロセスの後には、ユーザが正しいグループに割り当てられていることを確認してください。

LDAP 統合の管理

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2 LDAP サーバの同期の状態を確認するには、[LDAP統合]タブをクリックします。
- ステップ 3 (任意) LDAP 統合を管理するため、サーバを選択し、必要に応じて次のボタンをクリックします。

名称	説明
[検索ベースDN] ボタン	<p>検索するドメインの識別名を選択できます。LDAP 同期処理が完了すると、選択した組織のすべてのユーザとグループが Cisco UCS Director に取り込まれます。このアクションも、自動同期プロセスとみなされます。</p> <p>(注) LDAP サーバ同期をシステム タスクとして開始できます。詳細については、LDAP 同期システム タスクの実行、(49 ページ) を参照してください。</p>
[LDAPの手動同期のリクエスト]	表示されるダイアログボックスでは、LDAPユーザおよびグループを取得するための基本検索条件または拡張検索条件を指定できます。

- ステップ 4 (任意) [LDAP 手動サーバ同期の要求] を選択した場合は、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[基本検索] チェックボックス	組織単位で基本検索をイネーブルにします。
[詳細検索] チェックボックス	詳細検索をイネーブルにします。

重要 いずれかの検索オプションを使用する時点ですでにユーザおよびグループが Cisco UCS Director に存在する場合、検索を実行しても同じユーザとグループは読み込まれません。

- ステップ 5 基本検索の場合は、[選択] をクリックして検索ベースを指定します。
- ステップ 6 検索ベース DN を選択し、[選択] をクリックします。次にステップ 9 に進みます。
- ステップ 7 詳細検索の場合は、[詳細フィルタ オプション] ペインで、[ユーザフィルタ] と [グループフィルタ] に属性名を追加または編集します。
- ステップ 8 [次へ] をクリックします。
- ステップ 9 [ユーザとグループの選択] ペインで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
[LDAPグループ] フィールド	ユーザが同期する必要がある LDAP グループ。
[LDAPユーザ] フィールド	同期する必要がある LDAP ユーザ。

- ステップ 10 [送信] をクリックして、LDAP サーバを同期します。

LDAP サーバの設定

Cisco UCS Directorでは複数の LDAP サーバとアカウントを設定できます。

LDAP サーバアカウントが追加されると直ちにこのアカウントのシステム タスクが自動的に作成され、データ同期を即時に開始します。LDAP サーバアカウントのすべてのユーザとグループがシステムに追加されます。デフォルトでは、LDAP アカウントのすべてのユーザが自動的にサービス エンドユーザ プロファイルに割り当てられます。

はじめる前に

認証設定を次のいずれかに設定しておく必要があります。

- [ローカルが最初、LDAPにフォールバック]
- [LDAPが最初、ローカルにフォールバック]

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。
- ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] をクリックします。
- ステップ 4 [LDAPサーバ設定] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[アカウント名] フィールド	アカウント名。 この名前は一意である必要があります。

名称	説明
[サーバタイプ] フィールド	LDAP サーバのタイプ。この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • OpenLDAP • MSAD - Microsoft Active Directory
[サーバ] フィールド	LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
[SSLの有効化] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[ポート] フィールド	ポート番号 SSL の場合は 636 に、非セキュアモードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[認証の証明書] フィールド	認証用のサーバ証明書をアップロードします。 証明書を検索して選択するには、[参照] をクリックします。サーバ証明書をアップロードするには、[アップロード] をクリックします。 (注) このフィールドは、[SSLの有効化] チェックボックスを選択した場合にのみ使用できます。
[ドメイン名] フィールド	ドメイン名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、このドメイン名が、ユーザ名で指定されたドメインと一致している必要があります。 重要 完全なドメイン名を指定する必要があります。たとえば、 <code>vxedomain.com</code> などです。
[ユーザ名] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。 <code>uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com</code> ここに指定する <code>ou</code> は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。

- ステップ5 [次へ] をクリックします。
- ステップ6 [LDAP検索ベース] ペインで、[選択] をクリックして LDAP 検索ベースのエントリを指定し、[選択] をクリックします。
Cisco UCS Director で使用可能なすべての組織単位 (OU) がこのリストに表示されます。
- ステップ7 [次へ] をクリックします。
- ステップ8 [LDAPユーザロールフィルタ] ペインで、 (+) 記号をクリックして、ユーザロールフィルタを追加します。
- ステップ9 [ユーザロールフィルタへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[属性名] フィールド	属性の名前。これには、グループ名を指定できます。
[演算子] ドロップダウン リスト	この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • = • で始まる
[属性値] フィールド	このフィールドに値を指定します。 [演算子] フィールドと [属性値] フィールドの値に一致するすべてのユーザが、[ユーザロールのマップ] ドロップダウン リストで選択するユーザ ロールに割り当てられます。
[ユーザロールのマップ] ドロップダウン リスト	ユーザのマップ先とするユーザロールを選択します。この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてのポリシー管理者 • 請求管理者 • コンピューティング管理者 • サービス エンド ユーザ • グループ管理者 • IS 管理者 • ネットワーク管理者 • オペレータ管理者 • ストレージ管理者

ステップ 10 [送信] をクリックします。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

ユーザ ロール フィルタが [ユーザロールフィルタ] テーブルに追加されます。

(注) 複数のユーザ ロール フィルタが指定されている場合は、最初の行に指定されたフィルタが処理されます。

[ログインユーザ] タブでユーザのユーザ ロールを手動で更新すると、そのユーザには、グループをマップしたユーザ ロールが適用されなくなります。

次の作業

LDAP に認証設定を設定していない場合は、認証設定を変更するように求めるプロンプトが表示されます。認証設定の変更の詳細については、[認証の環境設定](#)、(41 ページ) を参照してください。

LDAP サーバのサマリー情報の表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。

ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択します。

ステップ 3 表から LDAP アカウント名を選択します。

ステップ 4 [表示] をクリックします。

[LDAP アカウント情報の表示] ダイアログボックスに、LDAP アカウントのサマリー情報が表示されます。

ステップ 5 [閉じる] をクリックします。

LDAP サーバの接続のテスト

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
 - ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択します。
 - ステップ 3 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。
 - ステップ 4 [テスト接続] をクリックします。
 - ステップ 5 [LDAP 接続のテスト] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。
-

LDAP 検索ベース DN エントリの追加

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザとグループ] の順に選択します。
 - ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択します。
 - ステップ 3 表から LDAP アカウント名を選択します。
 - ステップ 4 [検索ベースDN] をクリックします。
 - ステップ 5 [LDAP検索ベース] ダイアログボックスで、[選択] をクリックして検索エントリを選択します。
 - ステップ 6 [選択] をクリックします。
 - ステップ 7 [送信] をクリックします。
 - ステップ 8 [OK] をクリックします。
-

LDAP 同期システム タスクの実行

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
 - ステップ 2 [システムタスク] を選択します。
 - ステップ 3 [フィルタ] フィールドに LDAP と入力します。
 - ステップ 4 [システムのタスク] 表から [LDAPSyncTask] を選択します。
 - ステップ 5 [今すぐ実行] をクリックします。
 - ステップ 6 (任意) [タスクの管理] をクリックして、同期処理を有効または無効にします。
-

次の作業

同期プロセスの結果が Cisco UCS Director に表示されます。同期プロセスのサマリーを表示するには、[LDAP 統合] ペインで LDAP アカウントを選択し、[結果] をクリックします。

LDAP サーバの詳細の変更

設定済みの LDAP サーバに対し変更できるのは次の詳細情報のみです。

- ポート番号と SSL 設定
- ユーザ名とパスワード
- 検索ベース DN の選択内容
- マップされているユーザ ロール

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2** [LDAP統合] タブをクリックして、LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3** [変更] をクリックします。
- ステップ 4** [LDAPサーバ設定の変更] ペインで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[SSLの有効化] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[ポート] フィールド	ポート番号 SSL の場合は 636 に、非セキュアモードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[ユーザ名] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。 <code>uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com</code> ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード。

- ステップ5 [次へ] をクリックします。
- ステップ6 [LDAP検索ベース] ペインで、[選択] をクリックして LDAP 検索ベースのエントリを指定し、[選択] をクリックします。
- ステップ7 [次へ] をクリックします。
- ステップ8 [LDAPユーザロールフィルタ] ペインで、 (+) 記号をクリックして、ユーザロールフィルタを追加します。
- ステップ9 [ユーザロールフィルタへのエントリの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[属性名] フィールド	属性の名前。これには、グループ名を指定できます。
[演算子] ドロップダウン リスト	この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • = • で始まる
[属性値] フィールド	このフィールドに値を指定します。 [演算子] フィールドと [属性値] フィールドの値に一致するすべてのユーザが、[ユーザロールのマップ] ドロップダウン リストで選択するユーザ ロールに割り当てられます。
[ユーザロールのマップ] ドロップダウンリスト	ユーザのマップ先とするユーザロールを選択します。この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてのポリシー管理者 • 請求管理者 • コンピューティング管理者 • サービス エンド ユーザ • グループ管理者 • IS 管理者 • ネットワーク管理者 • オペレータ管理者 • ストレージ管理者

ステップ 10 [送信] をクリックします。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

ユーザ ロール フィルタが [ユーザロールフィルタ] テーブルに追加されます。

(注) 複数のユーザ ロール フィルタが指定されている場合は、最初の行に指定されたフィルタが処理されます。

LDAP サーバ情報の削除

LDAP サーバ アカウントを削除すると、次の動作が開始されます。

- LDAP ユーザに割り当てられていたリソースの割り当てが解除されます。
- LDAP ユーザに割り当てられていた VM の割り当てが解除されます。
- LDAP グループに割り当てられていたリソースの割り当てが解除されます。
- LDAP グループに割り当てられていた VM の割り当てが解除されます。
- LDAP ユーザに割り当てられていた VM 共有ポリシーの割り当てが解除されます。
- LDAP ユーザおよびグループに適用されていたタグがクリアされます。
- ユーザおよびグループが、データベースから直ちに削除されます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [ユーザとグループ] の順に選択します。

ステップ 2 [LDAP統合] タブを選択します。

ステップ 3 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。

ステップ 4 [削除] をクリックします。

ステップ 5 [LDAPアカウントを削除する] ダイアログボックスで、[削除] をクリックします。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

これにより、Cisco UCS Director 内の LDAP アカウントの削除が開始されます。LDAP アカウント内のユーザ数およびグループ数によって、この削除プロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。この間、LDAP アカウントが Cisco UCS Director に表示され続ける場合があります。[更新] をクリックして、アカウントが削除されたことを確認します。

シングル サインオン

Cisco UCS Director はワン ログインを使用してシングル サインオンを提供します。シングル サインオンは、ユーザがアプリケーションにアクセスするために、パスワードを複数回入力すること

を不要にします。シングルサインオンが有効な場合、ユーザはポータルにログインして Cisco UCS Director にアクセスできます。



(注) シングルサインオンは、ワンログイン証明書を登録した後、Cisco UCS Director で使用可能になります。

シングルサインオンの有効化

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2 [シングルサインオン] タブを選択します。
- ステップ 3 [シングルサインオン] ペインで、[シングルサインオンの有効化] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [アップロードするファイルの選択] フィールドで、ワンログイン証明書ファイルを参照し、選択します。
- ステップ 5 [アップロード] をクリックします。
- ステップ 6 アップロードが完了したら、[送信] をクリックします。

グループおよび顧客組織のブランディング

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2 [ユーザグループ] タブを選択します。
- ステップ 3 ブランディングするグループを選択します。
- ステップ 4 [ブランディング] をクリックします。
- ステップ 5 [グループブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ロゴイメージ] チェックボックス	ロゴイメージをアップロードするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 6 に進みます。

フィールド名	説明
[アプリケーションラベル] チェックボックス	アプリケーション ヘッダーに表示するアプリケーションラベルをカスタマイズするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 8 に進みます。
[ログアウト時のURL転送] チェックボックス	ログアウト時に特定の URL に転送するには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 9 に進みます。
[カスタムリンク] チェックボックス	カスタムリンクをブランディングするには、このチェックボックスをオンにします。 ステップ 10 に進みます。

ステップ 6 [アップロードするファイルの選択] フィールドで、ロゴイメージファイルを参照して選択します。

(注) ロゴイメージの形式が JPG、PNG、または GIF であることを確認します。最適なイメージサイズは幅 200 ピクセル、高さは 100 ピクセルです。ダウンロード時間を短縮するため、イメージサイズを小さくしておくことをお勧めします。

ステップ 7 [アップロード] をクリックします。

ステップ 8 (任意) アプリケーション ラベルとして、[ラベル1] および [ラベル2] フィールドに少なくとも 1 つのアプリケーションのラベルを入力します。

ステップ 9 (任意) [URL] フィールドに、ログアウト時にユーザを転送する URL を入力します。

ステップ 10 (任意) 少なくとも最初の 2 つのフィールドに値を入力してください。

名前	説明
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	カスタム リンク 1 のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	カスタム リンク 1 の URL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	カスタム リンク 2 のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	カスタム リンク 2 の URL。

ステップ 11 [送信] をクリックします。

ログインページのブランディング

ログインページは、ドメイン名に関連付けられているロゴを示すように設定できます。エンドユーザがそのドメインからログインすると、ログインページでそのカスタム ロゴが表示されます。ロゴの最適なイメージのサイズは幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセルで、余白に 255 ピクセルが割り当てられています。シスコは、より高速なダウンロードを実現するために、イメージサイズを小さくすることを推奨しています。



(注) グループまたは顧客組織のログイン ページは、最初にブランディングで設定される (有効にされる) 必要があります。

カスタム ドメイン ロゴの設定

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザとグループ]の順に選択します。
- ステップ 2 [ログインページブランディング] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] をクリックします。
- ステップ 4 [ドメインブランディング] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ドメイン名] フィールド	ブランディングするドメイン名。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	アップロードするロゴファイル。 (注) ロゴの最適なイメージサイズは、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセル、余白 255 ピクセルです。ダウンロード時間を短縮するため、イメージサイズを小さくしておくことをお勧めします。
[カスタムドメインロゴ] チェックボックス	指定されたドメイン名からのログイン ページブランディングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

- ステップ 5 [送信] をクリックします。

